

# 東白川村 美しい村づくり 委員会

## 第 28 回

- 場 所：ふれあいサロン
- 時 期：平成 30 年 8 月 20 日 19:00～21:00
- 参加者：委員 8 名 一般参加 3 名 行政 3 名

### 第 1 高野教授との学びの場

「持続可能な東白川村をデザインしよう！

～第 3 回地域のシェアハウス～

平成 30 年度に委員会では高野教授による勉強会を 4 回予定しています。  
今回はその第 3 回が行われました。

#### 1 高野教授のプロフィール

名古屋大学で地球学を研究後、環境学へと移籍。現在、名古屋大学大学院環境学研究科・持続的共発展教育研究センターで教授を務める。様々な専門家と協働し、主として地下資源が枯渇した千年後も成り立つ地球と社会のシステムを作り出すための『千年持続学』を研究。地域住民、行政とともに中山間地の地域再生に取り組んでいる。

◆「ミライの職業訓練校」校長

◆近編著：「持続可能な生き方をデザインしよう」（2017 明石書店）

～世界・宇宙・未来を通していまを生きる意味を考える ESD 実践学～

#### 2 レクチャー「地域のシェアハウス」の内容

委員会が行われる前に、委員の方と東白川村の空き家を見学しました。

資料「移住支援としてのシェアハウスのススメ」

※豊田市旭地区の福蔵寺の事例を紹介

(1) 移住希望者のニーズとは・・・。

- ア 田舎について何も知らない、自分があるか分からない
- イ 移住の手順が分からない
- ウ どのような地域か知りたい
- エ 空き家がなかなかみつからない
- オ 家の改修に時間がかかっているが、子どもを4月から地域の小学校へ通わせたい

(2) シェアハウスの利点。

- ア 田舎暮らしを体験できる
- イ 地域を知ることができる
- ウ 地域とつながる入り口になる
- エ 仲間ができる
- オ いろんなコトが始まる

(3) シェアハウスを運営するには・・・。

(4) 後見人の役割は「多様なつなぎ役と相談役」

(5) 後見人になれる人とは・・・。

- ア 地域で信頼されている
- イ 地域外とのネットワークを持っている
- ウ 移住支援をミッションとしている

(6) 運営のコツとは・・・。

### 3 話し合いでの意見

(1) シェアハウスとゲストハウスの併用という方法もある。

(2) シェアハウスは移住希望者と地元の方との緩やかな交流の場となる。

また、交流希望者と長い期間での関係を構築できる。

(3) 空き家の利活用は「タイミング」が大切。

(4) 「後見人」に興味がある。

(5) シェアハウスの対象となる入居者は「単身者」だけでなく、様々な形態がある。夫婦、学生（インターン）、農業研修者、コワーキングスペース利用者など。

(6) シェアハウスは手段であり、目的等を設定することから始めるものでは？

(7) 移住者が抱える「孤独・孤立」をケアする必要がある。

- (8) シェアハウスに、オープンスペース機能を設けるべき。
- (9) 入居者の選別が必要。人を見る目が必要。
- (10) 「後見人＝世話役」は多様な人・地域の間で調整できるスキルが必要。
- (11) 後見人等、ボランティアだと事業が続かないのでは？
- (12) 後見人は仕事ではなく、先輩的な役回りで良いのでは。
- (13) 美しい村づくり委員会がプレイヤーになると良い。
- (14) 行政の役割もある。家主⇔行政⇔後見人⇔入居者

#### 4 まとめ

話し合いの結果、シェアハウスについて更に話し合いたい！ということとなり、次回は高野教授のもと「地域のシェアハウス～具体的なプランづくり～」を行います。

#### 第2 次回について

##### 1 委員会 9月25日(火) 19時～

(会場) ふれあいサロン

(内容) 持続可能な東白川村をデザインしよう

～高野教授との学びの場～

「第4回 地域のシェアハウス～プラン作成～」

以上

※次頁写真掲載

## 委員会の様子

